

王圭会会報

2020

ご挨拶



王圭会 会長 那須 雅孝

木々の緑が深まる季節となりましたが、王圭会の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、例年であれば7月第1土曜日は王圭会総会の開催日となっております。しかし、本年度は新型コロナウイルス感染予防の観点から、森野禎浩先生、旭浩一先生両教授ともご相談申し上げて総会開催の中止を決定させていただきました。6月1日現在、幸いにも岩手に COVID-19 肺炎の患者はなく、また、非常事態宣言が解除され、都道府県を跨いだ不要不急の移動の自粛も6月19日には全面的に中止される見通しではありますが、全国的に第2波、第3波の感染爆発の抑止への取り組みが求められている今、総会中止の選択をさせていただきました。皆様におかれましては、何卒、ご了承いただきたくお願い申し上げます。

昨年の王圭会総会では、矢巾新病院見学ツアーや王圭会60年を振り返る医局写真の展示を行い、旧第二内科をルーツとする岩手医大循環器内科、腎・高血圧内科の医局の先生方と王圭会会員の親睦を深めることができました。本年度の総会でも王圭会学内役員や医局秘書の皆さんに例年通りの報告や討議などの準備を進めていただいておりますが、総会中止決定にあたり、今回は森野禎浩先生、旭浩一先生両教授のご挨拶とともに新入医局員紹介、会員動静や医局からの報告などを書面にて行わせていただきました。ご質問、ご意見等は医局、王圭会幹事まで頂きたいと存じます。

この度の新型コロナウイルス感染症は社会全般のシステムを大きく変え始めています。医療においても患者受診控えと診療システム変更、あるいは風評被害などが全国の医療機関の経営を圧迫し、また、患者受け入れの基幹病院での莫大な医療経費の増大が我が国の医療環境を大きく変えつつあることが報告されています。会員の皆様におかれてはいかがでしょう？お聞きしたところによると、循環器内科や腎・高血圧内科では online 会議などが行われているとのことです。医局の在り方も大きく変貌してゆくことも予想されますが、同時に同門会の在り方、医局とのかかわり方の変容も必然かもしれません。会員専用ウェブサイトの立ち上げなども一案でしょうか。Web 上の王圭会総会、会員相互の情報交換、医局による最新医療情報の提供、患者紹介などなど、いろいろありそうです。これらについても皆様とともに考えてゆきたいと思います。ご意見を賜りたくお願いいたします。

まだまだ先が見えない状況ですが、ぜひとも2021年7月の王圭会総会では皆様とお会いしたいと思います。いろいろ準備を進めてお待ちしております。皆様のご健勝をお祈りし、一堂に会する日を楽しみにしながら、ご挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

(腎・高血圧内科近況報告)



腎・高血圧内科分野 旭 浩一

王圭会の会員の皆様には日頃より当科の活動に様々な形でのご支援をいただき、心より感謝申し上げます。また今般のコロナ禍に際し、一時的な診療応援先の変更などにつき関係の会員の先生方にご高配いただいておりますことに改めて御礼申し上げます。昨年の王圭会総会以降の当科の現状と課題をご報告いたします。

【人事】

昨年10月に渡邊収司医師、高橋今日子医師がそれぞれ渡辺内科医院、鹿角中央病院に異動し、本年4月から岩手県立中央病院腎臓・リウマチ科吉川和寛医長(弘前大・2003年卒)を講師として新たに迎え、医局員は学内7名、学外出向1名(赤坂祐一郎:県立中央病院腎臓・リウマチ科)、院外研修1名(専攻医・守屋雄太:県立胆沢病院)の計9名の新体制となりました。

吉川講師は内科、腎臓、透析の各専門医・指導医を持つ腎臓病診療のall-rounderであり、interventional nephrologistとしてもvascular accessやperitoneal accessの造設・管理で顕著な実績をあげています。若手の精神的支柱となり、本県の新たな腎不全診療を担う人材の育成に貢献してくれるものと期待しています。

【診療】

大学の方針に従い、外来診療は内丸MCのみ、入院は矢巾新病院で対応しています。当科は2018年7月に厚生労働省から発出された「腎疾患対策検討会報告書」に基づき、腎疾患の重症化予防と末期腎不全を含む腎疾患患者のQOLの維持・改善を目標としています。

幸い諸先輩や院内各科からの数多くのご紹介をいただき患者数は順調に増加を続けています。腎生検も年間100件を超えており、各種の難治性腎疾患の初期診療、寛解導入を行う基幹施設、腎臓学会研修施設としては、質・量ともにほぼ全国標準の水準に達していると言えます。今後とも腎疾患患者の重症化予防のため当科へのアクセスの改善、診療の質のさらなる向上、学術的発信を進めてまいります。

一方、初期治療が奏功しない、あるいは治療時機を逸した保存期CKDと末期腎不全に対する診療能力の涵養は、患者予後と生涯にわたるQOLを大きく左右するため腎臓内科医にとって最も重要であり、当科にとっても急を要する課題です。昨年10月からは新たに三愛病院への派遣を始め、現在週2回の非常勤で維持透析管理とvascular access

の造設・管理のお手伝いをしています。重症度に応じた適切な病診連携、shared decision makingによる腎代替療法選択、生涯にわたる全人的な透析管理ができる腎臓内科医を一人でも多く養成し、現代的な腎疾患診療文化を地域に醸成したいと思っております。

【教育】

腎臓病学の系統講義は全21回中当科の担当を従前の8回から17回に倍増し、内容を全面的に刷新しました。また臨床実習を座学・見学中心から症例基盤のactive learning重視へ転換し、学生同士のdebateを取り入れるなど、臨床的思考の鍛錬の契機とし、当科の診療領域とスタイルに正しい理解が得られるよう改善しました。

卒後教育は全員が腎臓専門医を早期に取得することを目指し、教育の一環として病棟診療のグループ制を確立し、徹底したカンファレンスを通じて高いレベルでの診療の平準化を図っています。腎臓学会研修施設である県立中央病院、三愛病院と交流して多様な腎疾患診療を経験させるとともに、個別のキャリアパスに応じて県外の透析施設への派遣も計画しています。昨年度は野田晴也が旧制度の認定内科医の資格を取得しました。

【研究】

田中文隆准教授を中心に教室伝統の住民コホートの豊富な研究資源を継承しており、松浦佑樹が岩手県北コホートのデータを用いて「血清尿酸値の心血管リスクへの影響の性差」をテーマに学位を取得しました。現在大学院生の菊池調がこれに続いています。今後、当科独自の患者コホートを整備するとともに、いわて東北メディカルメガバンク機構や、私が統括する死亡アウトカムの観察が可能な全国規模特定健診受診者のデータも活用してゆきます。上記のような地域住民、患者集団の丁寧な観察から作業仮説を抽出し、新たな臨床研究や基礎的探索的研究を展開する方向性で進めてゆく所存です。

公的研究費の獲得も積極的に行い、文科省科研費(基盤C)2件(旭、田中)の他にも、以下の4つの研究事業を分担し、全国に岩手医大のプレゼンスを示しています。【厚生省行政推進調査事業費補助金(腎疾患政策研究事業)1件、厚生省科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業)1件、同(腎疾患政策研究事業)1件、日本医療研究開発機構(腎疾患実用化研究事業)1件(いずれも旭)】

ご挨拶



循環器内科分野 森野 禎浩

未曾有の危機に対し、王圭会の皆様におかれましては、模索しながらの厳しい日々が続いていらっしゃるかと拝察します。岩手県では COVID-19 の感染例が出ていないものの、我々も、その準備・対応におわれ、学会や研究会がキャンセルないしはリモート開催になり、新しい様式への適応を余儀なくされています。王圭会総会は現役医局員にとって、OB の先生とお目にかかれる貴重な機会なので大変残念です。

昨年9月の矢巾移転後、看護師不足や特殊CTなど検査制限の問題が重なり、これらが改善する「4月になれば」という期待のもと、「3速」で走ってきました。ところが、地域研究会の中止、広報活動の自粛ムードから、4月以降の矢巾病院の変化について皆様にお伝えする機会を失い、「トップギア」どころか「2速」に減速し、梅雨を迎えてしまいました。新病院移転に伴い、北東北の循環器診療を託される組織になるべく、設計段階から新しいコンセプトを多数導入しました。同封チラシ(岩手医科における循環器診療～ここが変わった～)に、我々の変化の詳細を纏めています。4月の大学機関誌郵送時に同封で発送するつもりで準備したのですが、諸事を考慮し断念しました。しかしながら、同胞の皆様には後輩の「変化した部分・特徴」についてご理解頂きたく、お会いできない代わりに、今回同封させていただくことと致しました。(また、FM 岩手の「いのちから」でも同内容について話しました。こちらはFM 岩手のホームページ、教室のHPからダウンロードして視聴できます)

こう申しますのは、とくに診療に関して、当科が大きな危機に瀕しているからに他ありません。待機治療のみならず緊急症例も大きく減少しています。ステイホームによる心疾患増悪の回避、患者さんの受診控えなどが主因とはいえ、2病院体制のわかりにくさやサービス不足、交通の不便さなど、根深い問題があると分析しています。王圭会の皆様におかれましては、従来どおり緊急ホットライン(019-653-2431 電話番号は変わっていません)を通じ、待機患者様については、内丸・矢巾どちらでも結構ですので、一人でも多くの患者様をご紹介いただくよう、改めてお願い申し上げます。率直に申しまして、王圭会の皆様の格別な組織的サポートを必要としております。

危機的な状況になればなるほど、組織においては本当に頼れる人材が頭角を現します。医系大学にとって「診療」と「教育」が2本柱ですが、両領域で王圭会の後輩が活躍しています。4月から房崎准教授が病院長補佐に抜擢され、病院の経営改善の「責任者」として改革の旗を振っています。一方、授業や実習をいつまで続けられるかという混迷の中、伊藤教授は学生教育を正道から外さず、「精神的支柱」となり安定感を持たせながら牽引しています。現役の王圭会会員が中枢にあって、岩手医科大学の将来を託され奮闘しています。また、科内の話題としては、主に後藤助教の功績で、医療安全の最優秀部署として表彰されました。インシデントやアクシデントは遅滞なくシェアし、それらを最小化する自浄力を高めて参りたいと思います。

当科は国内随一の治療ラインナップを揃えており、より広域の患者様に対し診療提供する役割が生まれました。それに伴い、「新たな診療体制」に向けリストラクチャーする必要があります。そのキーワードは、今や15に及ぶ常勤医派遣関連病院、並びに外来医派遣医療機関との連動連携だと思っています。患者さんは利便性の良い地域の病院で検査を済ませ、特殊治療だけを受けに大学病院に来て頂き、フォローアップも地域でお願いするという運用を、誰もストレスの感じずにスムーズに動く体制の整備が急がれます。各施設にも収益を確保頂ける win-win 構造が不可欠です。このように、日々変化する状況を発信するため、教室のホームページを完全にリニューアルいたしました。皆様のパソコンやスマホのお気に入りに入り当科のホームページを登録いただき、来訪いただけますと幸いです。頻繁に更新して参ります。同門会のページもリンク致します。いま現役メンバーができることは、「危機にこそ最大の好機がある」と信じることと、医局員一同が懸命に改善に取り組むことです。2020年度も変わらぬ暖かいご支援を、よろしくお願い申し上げます。

岩手医大循環器内科ホームページ

<https://iwate-heart.jp/>

<会員各賞受賞>

名 前	受 賞 名	受 賞 日
奈良 正人	厚生労働大臣表彰	2019年 9月 9日
折祖 清蔵	岩手県知事表彰	2019年 11月 25日
中野 淳平	岩手県学校保健功労者表彰	2019年 12月 13日

<会員所属先変更のお知らせ>

名 前	変 更	
宮川 朋久	旧／総合水沢病院 副院長 新／社団医療法人内丸病院 循環器内科 〈勤〉〒020-0015 盛岡市本町通り1丁目12-7	TEL019-654-5331 FAX019-651-8542
橋本 浩哉	旧／大和徳洲会病院 循環器内科部長 新／たちばな台病院 循環器内科医長 〈勤〉〒227-0046 横浜市青葉区たちばな台2-2-1	TEL045-962-3338 FAX／045-962-3172
近藤 雄史	旧／三陸病院 副院長 新／医療法人財団正清会六角牛病院 院長 〈勤〉〒028-0502 遠野市青笹町中沢5-5-1	TE 0198-62-2026 FAX／0198-62-2027
大和田 雅彦	旧／岩手県立中央病院 総合診療科 新／医療法人謙和会荻野病院 〈勤〉〒020-0866 盛岡市本宮1丁目6-12	TEL019-636-0317 FAX019-635-1304
今 寿	旧／北海道中央労災病院 心臓血管内科 新／札幌整形循環器病院 〈勤〉〒004-0861 札幌市清田区北野1条2丁目11-30	TEL011-881-1100 FAX／011-881-8931
鈴木 創	旧／鶴谷医院 内科 新／鈴木医院 理事長 〈勤〉〒370-0344 太田市新田早川町343	TEL0276-56-7876 FAX／0276-56-7875
佐々木 加弥	旧／ベルランド総合病院 新／近江八幡総合医療センター 総合内科 〈勤〉〒523-0082 近江八幡市土田町1379	TEL0748-33-3151 FAX／0748-33-4877

学内医局員)


名 前	現 所 属	旧
長沼 雄二郎	秋田赤十字病院 循環器内科副部長	八戸赤十字病院 循環器内科科長
渡邊 収司	医療法人芳譲会 渡辺内科医院	腎・高血圧内科 助教
高橋 今日子	医療法人恵愛会 鹿角中央病院	腎・高血圧内科 専攻医

物故会員)


名 前	卒業年度 / 入局年度	逝 去 日
布川 昭雄	1965年卒 / 1966年入局	2019年 7月 30日
嵐 賢治	1977年卒 / 1982年入局	2019年 7月 30日
和田 利彦	1981年卒 / 1988年入局	2020年 4月 15日


新入医局員紹介 (2020年4月入局)

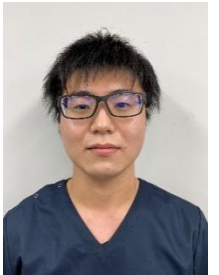
【腎・高血圧内科】


	吉川 和寛 (よしかわ かずひろ)	
	卒業大学	弘前大学
	卒業年	2003年
ひとこと	玉圭会に加えてくださり有難うございます。岩手県立中央病院腎臓・リウマチ科在職中にも先生方には大変お世話になり、厚く御礼申し上げます。尽力いたします。何卒宜しく願い申し上げます。	

【循環器内科】

	押切 祐哉 (おしきり ゆうや)	
	卒業大学	岩手医科大学
	卒業年	2018年
ひとこと	地元岩手の医療に貢献できるよう、日々精進していきます。御指導・御鞭撻の程、何卒宜しく願い致します。	

	菊池 熙人 (きくち ひろと)	
	卒業大学	岩手医科大学
	卒業年	2018年
ひとこと	今年から岩手医科大学循環器内科に入局させていただきました。至らぬ点多いかと思いますが、日々精進して参ります。ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。	

	沼畑 亘 (ぬまはた わたる)	
	卒業大学	岩手医科大学
	卒業年	2018年
ひとこと	今年度より入局した沼畑亘です。まだまだ未熟ではありますが、御指導御鞭撻の程よろしくお願い致します。	

	沼崎 大諄 (ぬまざき はるとも)	
	卒業大学	岩手医科大学
	卒業年	2020年
ひとこと	知らないことばかりではありますが、一歩ずつ自分の思うよいお医者さんを目指して頑張っていきたいと思っています。	

王圭会会則

第1章 総則

(名称・目的)

第1条 本会は名称を岩手医科大学第二内科 王圭会とし、会員相互の親睦、学識の向上を図ることを目的とする。

(会員)

第2条 本会会員は、岩手医科大学医学部旧内科学第二講座、内科学講座循環器内科分野及び同腎・高血圧内科分野に在籍した者、並びに在籍中の者とする。

(事務局)

第3条 本会の事務局を、岩手医科大学医学部内科学講座循環器内科分野におく。

(所在地)

第4条 本会の所在地を次のとおりとする。
岩手県紫波郡矢巾町医大通2丁目1番1号におく。

(事業)

第5条 本会は事業として次のことを行う。

イ、会員名簿の発行

ロ、会誌の発行

ハ、本会の必要と認める事項

第2章 役員

(役員の種類)

第6条 本会に次の役員を置く。

(1) 会長 1名

①会長は会を代表して会務を総括する。

②会長は教室外の会員より総会において選出する。

③会長が退任、もしくは任務遂行が不可能な時は、会長代行をおくことができ、幹事会において副会長より選出する。

(2) 副会長 2名

副会長は、総会の承認を経て会長がこれを委嘱して会務遂行にあてる。

(3) 名誉会長 2名

内科学講座循環器内科分野及び腎・高血圧内科分野の担当主任教授を名誉会長に推薦する。

(4) 顧問 若干名

①名誉会長が退職したときは顧問を委嘱する。

②本会に功労があった会員に顧問を委嘱することができる。

(5) 学外幹事 若干名

(6) 学内幹事 若干名

幹事は、教室内並びに教室外より総会の承認を経て会長がこれを委嘱して会務遂行にあてる。

(7)会計 1名

①会計は会の会計事務を処理する

②会計は事務局のおかれる医局の医局長が行う。

(8)会計監査 2名

①会計監査は会の会計事務を監査する。

②会計監査は、総会において推薦し会長が委嘱する。

(役員任期)

第7条 役員並びに支部世話人の任期は2年とし、再任することが出来る。

第3章 総会

(総会の種類)

第8条 総会は定例総会および臨時総会とする。

2 定例総会は原則として年1回とする。

3 会長が必要と認めるとき、会員の要求がある時は役員会の承認を経て、臨時総会を開催することができる。

4 災害等やむを得ない事情により、総会を開くことができない場合には、役員会の議決をもってこれにかえることができる。

(総会の招集)

第9条 総会は会長が招集する。

(総会の議決)

第10条 総会の議決は出席者の過半数をもって決する。

第4章 役員会

(役員会の構成)

第11条 会の中に役員会を置く。

2 役員会は第5条で定める役員をもって構成する。

(役員会の招集)

第12条 役員会は必要の都度開催することが出来る。

(役員会の議決)

第13条 役員会の議決は出席者の過半数をもって決する。

2 役員会は役員全員の同意がある場合に限り書面による議決ができる。

第5章 会計

(経費)

第14条 本会の経費は会費及び寄附金をもってこれにあてる。

(会費)

第15条 会費の額は総会で決定する。但し、役員会が必要と認めた場合は臨時費を徴収することが出来る。

(事業年度)

第16条 本会の事業年度及び会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(会計監査)

第17条 会計の監査は随時これを行うことができる。

(会計報告)

第18条 年1回総会で会計報告をして承認を得る。

第6章 支部設置

(支部設置)

第19条 会員多数在住の地には役員会の承認を経て支部をおくことが出来る。

2 支部には支部世話人をおくことが出来る。支部世話人は支部会員の推薦により会長が委嘱する。

2008年7月改定

2012年7月改定

2018年7月改定

2020年7月改定

王圭会役員名簿

会 長 那須 雅孝

副 会 長 瀬川 郁夫 小松 隆

名誉会長 旭 浩一 森野 禎浩

顧 問 平盛 勝彦 鈴木 茂 三船 慎一 中村 元行 荻野 忠良

会 計 安孫子 明彦

会計監査 本間 博 田代 敦

学外幹事 工藤 博司 西城 精一 鈴木 智之 木村 秀孝 臼井 康雄
渡辺 立夫 市川 隆 水沼 吉美 鈴木 知己

学内幹事 田代 敦 小松 隆 伊藤 智範 石田 大 瀬川 利恵
田中 文隆 房崎 哲也 安孫子 明彦 大和田 真玄

※王圭会会則変更案:書面稟議 異議なしにて議決

※王圭会役員案:書面稟議 異議なしにて議決

会計報告 (2019年度)

2019年度 王圭会会計報告

◇収支報告

2019/4/1～2020/3/31

繰越	前年度から繰越	3,673,101
収入	年会費	2,155,000
	総会参加費	1,100,000
	預金利息	34
収入計		3,255,034
支出	王圭会総会会場費他	1,028,692
	香典・献花	116,236
	はがき・切手代	113,658
	印刷代	105,742
	医局助成金	2,000,000
	論文奨励賞金	50,000
	振込手数料	3,376
	年会費返金	10,000
	払込手数料	18,250
	その他	28,455
支出計		3,474,409
現在残高		3,453,726

2019年度 王圭会助成金(特別会計)会計報告
腎・高血圧内科

◇特別会計 収支報告

2019/4/1～2020/3/31

繰越	前年度から繰越	547,825
収入	王圭会より	1,000,000
	決算利息	9
収入計		1,000,009
支出	学会旅費補助	444,880
	振込手数料	550
支出計		445,430
現在残高		1,102,404

◇2020年度 収支計画案

繰越	2019年度より繰越	1,102,404
収入予定	2020年度王圭会補助金予定	500,000
収入予定計		1,602,404
支出予定	医局員・学生旅費補助(発表)	500,000
	臨床研究費	300,000
	ホームページ関連費	800,000
支出予定計		1,600,000
差引収支(在高)予定		2,404

2019年度 王圭会助成金(特別会計)会計報告
循環器内科

◇特別会計 収支報告

2019/4/1～2020/3/31

繰越	前年度から繰越	823,936
収入	王圭会より	1,000,000
	決算利息	10
収入計		1,000,010
支出	移転関連費(医局備品購入)	690,050
	施設認定料	251,760
	ホームページ関連費	132,550
	消耗品	92,232
	通信費	65,928
	学会旅費補助	2,660
支出計		1,235,180
現在残高		588,766

◇2020年度 収支計画案

繰越	2019年度より繰越	588,766
収入予定	2020年度王圭会補助金予定	500,000
収入予定計		1,088,766
支出予定	施設認定料	400,000
	ホームページ関連費	350,000
	臨床研究費	100,000
	通信費	100,000
	学会旅費補助	100,000
支出予定計		1,050,000
差引収支(在高)予定		38,766



監査報告

監査報告書

2020年 6月 30日

王圭会
会長 那須 雅孝 殿

王圭会会計監査役

本間 博 
田代 敦 

当監査役は、王圭会の2019年4月1日から2020年3月31日までの収支計算書等について監査を行った。

この監査に当たって、当監査役は、一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠し、通常実施すべき監査手続きを実施した。

監査の結果、当会の採用する会計処理の原則及び手続は一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準及び寄付行為に準拠し、かつ前年度と同一の基準に従って継続して適用されており、また計算書類の表示方法は、一般に公正妥当と認められる会計の基準に準拠しているものと認められた。

よって、当監査役は上記の計算書類が王圭会の収支の状況を適正に表示しているものと認める。

以上

発表業績

<教室から公表された学位論文>

腎・高血圧内科	循環器内科	生体情報 解析部門
1	3	1
計:5		

<教室から公表された論文>

■学内：学内の王圭会員が第一著者かつ複数の王圭会員が共著者となった論文

腎・高血圧内科	循環器内科
1	5
計:6	

■学外共同：王圭会員が共著者となった論文

腎・高血圧内科	循環器内科	生体情報 解析部門
7	11	3
計:21		

<著書>

腎・高血圧内科	循環器内科
2	11
計:13	

<教室から公表された学位論文>

1. Matsuura Y, Tanaka F, Segawa T, Tanno K, Sakata K, Ohsawa M, Omama S, Ogasawara K, Asahi K, Nakamura M. : Sex differences in the influence of elevated serum uric acid levels for cardiovascular risk in the general population with normal renal function. The Journal of the Iwate Medical Association (in press)
2. Nasu T, Satoh M, Ohmomo H, Shiwa Y, Komaki S, Ono K, Shimizu A, Taguchi S, Takahashi Y, Osaki T, Morino Y, Sobue K, Sasaki M. : Epigenome-Wide Association Study Identifies a Novel DNA Methylation in Patients With Severe Aortic Valve Stenosis. Circ Genom Precis Med. Feb;13(1): e002649. (2020)
3. Hideto Oda, Tomonori Itoh, Wataru Sasaki, Yohei Uchimura, Yuya Taguchi, Kyosuke Kaneko, Tsubasa Sakamoto, Iwao Goto, Masafumi Sakuma, Masaru Ishida, Tatsuo Kikuchi, Daisuke Terashita, Hiromasa Otake, Yoshihiro Morino, Toshiro Shinke. : Cut-off Value of Strut-Vessel Distance for the Resolution of Acute Incomplete Stent Apposition in the Early Phase Using Serial Optical Coherence Tomography After Cobalt-Chromium Everolimus-Eluting Stent Implantation. J Cardiol. Jun;75(6):641-647. (2020)
4. Hidemi Morioka, Yorihiro Koeda, Tomonori Itoh, Yoshihiro Morino, Tomohiro Mizutani, Junya Ako, Masataka Nakano, Koichiro Yoshioka, Yuji Ikari, Shu Inami, Masashi Sakuma, Isao Taguchi, Tetsuya Ishikawa, Hiroyuki Sugimura, Keiki Sugi, Kazuo Matsumoto, Takanobu Mitarai, Tomoyuki Kunishima, Yoshihiro J. Akashi, Takahiro Nomura, Ken Kohzuma, Kei Fukushi, Hideaki Yoshino. : Is the Prognosis Favourable in Patients without Cardiogenic Shock on Admission Following Acute Myocardial Infarction in the Left Main Trunk? Journal of Coronary Artery Disease. 26(1):1-8. (2020)

5. Shohei Yamaya, Yoshihiro Morino, Yuya Taguchi, Ryo Ninomiya, Masaru Ishida, Tetsuya Fusazaki, Tomonori Itoh, Takumi Kimura. : Comparison of Archival Angiographic Findings in Patients Later Developing Acute Coronary Syndrome or Stable Angina. *Int Heart J*. Apr 29. doi: 10.1536/ihj.19-601. (2020)

<教室から公表された論文>

■学内 学内の王圭会員が第一著者かつ複数の王圭会員が共著者となった論文

1. Tanaka F, Komi R, Nakamura M, Tanno K, Onoda T, Ohsawa M, Sakata K, Omama S, Ogasawara K, Ishibashi Y, Yonekura Y, Itai K, Kuribayashi T, Kikuchi Y, Ishigaki Y, Okayama A, Asahi K; Iwate-Kencho Study Group. Additional prognostic value of electrocardiographic left ventricular hypertrophy in traditional cardiovascular risk assessments in chronic kidney disease. *J Hypertens*. 2020 Jun;38(6):1149-1157.
2. 山屋昌平, 朴澤麻衣子, 松本裕樹, 佐々木加弥, 後藤巖, 中島悟史, 木村琢巳, 金一, 森野禎浩. : 鈍的心損傷後の慢性期に心タンポナーデを発症し、左室瘤を認めた症例. *心臓*. 51 (8) : 816-823. (2019)
3. 伊藤智範 : 宮本論文に対する Editorial Comment - さあ、われわれはその場で適切に対応できるか-心臓. 51 (8) : 831-832. (2019)
4. Yoshizawa R, Komatsu T, Kojima K, Owada S. : Radiofrequency catheter ablation for inappropriate sinus tachycardia in a patient with systemic lupus erythematosus: a case report. *Eur Heart J Case Rep*. 2019 Sep 1;3(3):ytz102. (2019)
5. Yorihiko Koeda, Tomonori Itoh, Yu Ishikawa, Yoshihiro Morino, Tomohiro Mizutani, Junya Ako, Masataka Nakano, Koichiro Yoshioka, Yuji Ikari, Shu Inami, Masashi Sakuma, Isao Taguchi, Tetsuya Ishikawa, Hiroyuki Sugimura, Keiki Sugi, Kazuo Matsumoto, Takanobu Mitarai,

Tomoyuki Kunishima, Yoshihiro J Akashi, Takahiro Nomura, Kei Fukushi, Hideaki Yoshino, Cardiovascular Research Consortium-8 Universities (CIRC-8U) : A Multicenter Study on the Clinical Characteristics and Risk Factors of In-Hospital Mortality in Patients With Mechanical Complications Following Acute Myocardial Infarction. *Heart Vessels*. Apr 1. doi: 10.1007 (2020)

6. Yoshihiro Morino, Yoshifumi Nakajima. : Structural heart intervention for prevention of embolic and hemorrhagic stroke: The new field of neurocardiology. *Journal of Cardiology*. May 29;S0914-5087(20)30155-6

■学外共同 王圭会員が共著者となった論文

1. Nagai K, Yamagata K, Iseki K, Moriyama T, Tsuruya K, Fujimoto S, Narita I, Konta T, Kondo M, Kasahara M, Shibagaki Y, Asahi K, Watanabe T. Cause-specific mortality in the general population with transient dipstick-proteinuria. *PLoS One*. 2019 Oct 2;14(10):e0223005.
2. Sakamoto M, Edo N, Takahashi S, Okamura E, Uno K, Morita K, Ishikawa T, Asahi K, Iseki K, Moriyama T, Yamagata K, Tsuruya K, Fujimoto S, Narita I, Konta T, Kondo M, Kimura K, Ohashi Y, Watanabe T, Tsukamoto K. Association between Prescription and Control Status of Dyslipidemia and Hypertension among Japanese Patients with Diabetes. *J Atheroscler Thromb*. 2019 Sep 1;26(9):805-820.
3. Nishimoto M, Tagawa M, Matsui M, Eriguchi M, Samejima KI, Iseki K, Iseki C, Asahi K, Yamagata K, Konta T, Fujimoto S, Narita I, Kasahara M, Shibagaki Y, Moriyama T, Kondo M, Watanabe T, Tsuruya K. A Prediction Model with Lifestyle in Addition to Previously Known Risk Factors Improves Its Predictive Ability for Cardiovascular Death. *Sci Rep*. 2019 Sep 10;9(1):12953.

4. Nagai K, Yamagata K, Iseki K, Moriyama T, Tsuruya K, Fujimoto S, Narita I, Konta T, Kondo M, Kasahara M, Shibagaki Y, Asahi K, Watanabe T. Antihypertensive treatment and risk of cardiovascular mortality in patients with chronic kidney disease diagnosed based on the presence of proteinuria and renal function: A large longitudinal study in Japan. *PLoS One*. 2019 Dec 4;14(12):e0225812.
5. Hoshino J, Muenz D, Zee J, Sukul N, Speyer E, Guedes M, Lopes AA, Asahi K, van Haalen H, James G, Dhalwani N, Pecoits-Filho R, Bieber B, Robinson BM, Pisoni RL; CKDopps Investigators. Associations of Hemoglobin Levels With Health-Related Quality of Life, Physical Activity, and Clinical Outcomes in Persons With Stage 3–5 Nondialysis CKD. *J Ren Nutr*. 2020 Jan 21:S1051–2276(19)30414–5.
6. Konta T, Ichikawa K, Kawasaki R, Fujimoto S, Iseki K, Moriyama T, Yamagata K, Tsuruya K, Narita I, Kondo M, Shibagaki Y, Kasahara M, Asahi K, Watanabe T. Association between serum uric acid levels and mortality: a nationwide community-based cohort study. *Sci Rep*. 2020 Apr 8;10(1):6066.
7. Nakajima A, Tanaka K, Saito H, Iwasaki T, Oda A, Kanno M, Shimabukuro M, Asahi K, Watanabe T, Kazama JJ. Blood pressure control in chronic kidney disease according to underlying renal disease: the Fukushima CKD cohort. *Clin Exp Nephrol*. 2020 May;24(5):427–434.
8. Hozawa A, Tanno K, Nakaya N, Nakamura T, Tsuchiya N, Hirata T, Narita A, Kogure M, Nochioka K, Sasaki R, Takanashi N, Otsuka K, Sakata K, Kuriyama S, Kikuya M, Tanabe O, Sugawara J, Suzuki K, Suzuki Y, Kodama EN, Fuse N, Kiyomoto H, Tomita H, Uruno A, Hamanaka Y, Metoki H, Ishikuro M, Obara T, Kobayashi T, Kitatani K, Takai-Igarashi T, Ogishima S, Satoh M, Ohmomo H, Tsuboi A, Egawa S, Ishii T, Ito K, Ito S, Taki Y, Minegishi N, Ishii N, Nagasaki M, Igarashi K, Koshiba S, Shimizu R, Tamiya G, Nakayama K, Motohashi H, Yasuda J, Shimizu A, Hachiya T, Shiwa Y, Tominaga T, Tanaka H, Oyama K, Tanaka R, Kawame H, Fukushima A, Ishigaki Y, Tokutomi T, Osumi N, Kobayashi T, Nagami F, Hashizume H, Arai T, Kawaguchi Y, Higuchi S, Sakaida M, Endo R, Nishizuka S, Tsuji I, Hitomi J, Nakamura M, Ogasawara K, Yaegashi N, Kinoshita K, Kure S, Sakai A, Kobayashi S, Sobue K, Sasaki M, Yamamoto M. J. :Study profile of The Tohoku Medical Megabank Community-Based Cohort Study. *Epidemiol*. 2020. doi: 10.2188/jea.JE20190271. Online ahead of print. PMID: 31932529
9. Minegishi N, Nishijima I, Nobukuni T, Kudo H, Ishida N, Terakawa T, Kumada K, Yamashita R, Katsuoka F, Ogishima S, Suzuki K, Sasaki M, Satoh M, Tohoku Medical Megabank Project Study Group, Yamamoto M. :Biobank Establishment and Sample Management in the Tohoku Medical Megabank Project. *Tohoku J Exp Med*. 2019;248(1):45–55. doi: 10.1620/tjem.248.45.
10. Tanikawa C, Kamatani Y, Terao C, Usami M, Takahashi A, Momozawa Y, Suzuki K, Ogishima S, Shimizu A, Satoh M, Matsuo K, Mikami H, Naito M, Wakai K, Yamaji T, Sawada N, Iwasaki M, Tsugane S, Kohri K, Yu ASL, Yasui T, Murakami Y, Kubo M, Matsuda K. J. :Novel Risk Loci Identified in a Genome-Wide Association Study of Urolithiasis in a Japanese Population. *Am Soc Nephrol*. 2019;30(5):855–864. doi: 10.1681/ASN.2018090942.
11. Pargaonkar VS, Kobayashi Y, Kimura T, Schnittger I, Chow EKH, Froelicher VF, Rogers IS, Lee DP, Fearon WF, Yeung AC, Stefanick ML, Tremmel JA. : Accuracy of non-invasive stress testing in women and men with angina in the absence of obstructive coronary artery disease. *Int J Cardiol*. 282:7–15. (2019)

12. Hibi K, Kozuma K, Sonoda S, Endo T, Tanaka H, Kyono H, Koshida R, Ishihara T, Awata M, Kume T, Tanabe K, **Morino Y**, Tsukahara K, Ikari Y, Fujii K, Yamasaki M, Yamanaka T, Kimura K, Isshiki T; VAMPIRE 3 Investigators. : A Randomized Study of Distal Filter Protection Versus Conventional Treatment During Percutaneous Coronary Intervention in Patients With Attenuated Plaque Identified by Intravascular Ultrasound. *JACC Cardiovasc Interv.* Aug 27;11(16): 1545-1555. (2019)
13. Tanaka N, Kohsaka S, Murata T, Akasaka T, Kadota K, Uemura S, Amano T, Shiode N, **Morino Y**, Fujii K, Hikichi Y, Nakamura M. : Treatment strategy modification and its implication on the medical cost of fractional flow reserve-guided percutaneous coronary intervention in Japan. *J Cardiol.* Jan;73(1) : 38-44. (2019)
14. Masahiro Natsuaki, Takeshi Morimoto, M.D. Hirotooshi Watanabe, M.D., Yoshihisa Nakagawa, M.D., Yutaka Furukawa, M.D., Kazushige Kadota, M.D., Takashi Akasaka, M.D., Keiichi Igarashi Hanaoka, M.D., Ken Kozuma, M.D., Kengo Tanabe, M.D., **Yoshihiro Morino, M.D.**, Toshiya Muramatsu, M.D., Takeshi Kimura, M.D., on behalf of the CREDO-Kyoto PCI/CABG registry cohort-2, RESET and NEXT trial investigators. : Ischemic and Bleeding Risk after Percutaneous Coronary Intervention in Patients with Prior Ischemic and Hemorrhagic Stroke. *J Am Heart Assoc.* Nov 19;8(22):e013356. (2019)
15. Shinke T, **Itoh T**, **Ishida M**, Otake H, Terashita D, **Fusazaki T**, Kikuchi T, Okamura T, Morita T, Hayashi T, Sawada T, Yasaka Y, Inoue T, Matsuura A, Kawata M, Kozuki A, Shite J, Kataoka T, Hibi K, Ishihara S, Akasaka T, Kubo T, Ino Y, Sonoda S, Furuya J, Sugaya T, Shibata Y, Kuriyama N, Igarashi N, Matsumoto D, Hiranuma N, Otsuka Y, **Morino Y**. : Early and Mid-Term Vascular Responses to Optical Coherence Tomography-Guided Everolimus-Eluting Stent Implantation in Stable Coronary Artery Disease. *Can J Cardiol.* Nov;35(11): 1513-1522. (2019)
16. Kensaku Nishihira, Sunao Kojima, Misa Takegami, Satoshi Honda, Yoko M. Nakao, Jun Takahashi, **Tomonori Itoh**, Tetsu Watanabe, Morimasa Takayama, Hiroaki Shimokawa, Tetsuya Sumiyoshi, Kazuo Kimura, Satoshi Yasuda, on behalf of the JAMIR Investigators. : Clinical Characteristics and In-Hospital Mortality According to Left Main and Non-Left Main Culprit Lesions — Report From the Japan Acute Myocardial Infarction Registry (JAMIR) — *Circulation Reports.* 1(12) : 601-609. (2019)
17. Kazuo Kimura, Takeshi Kimura, Masaharu Ishihara, Yoshihisa Nakagawa, Koichi Nakao, Katsumi Miyauchi, Tomohiro Sakamoto, Kenichi Tsujita, Nobuhisa Hagiwara, Shunichi Miyazaki, Junya Ako, Hirokuni Arai, Hideki Ishii, Hideki Origuchi, Wataru Shimizu, Hirofumi Takemura, Yoshio Tahara, Yoshihiro Morino, Kenji Iino, **Tomonori Itoh**, Yoshitaka Iwanaga, Keiji Uchida, Hirohisa Endo, Ken Kongoji, Kenji Sakamoto, Hiroki Shiomi, Takao Shimohama, Atsushi Suzuki, Jun Takahashi, Ichiro Takeuchi, Akihito Tanaka, Toshihiro Tamura, Takahiro Nakashima, Teruo Noguchi, Daisuke Fukamachi, Tomohiro Mizuno, Junichi Yamaguchi, Kenji Yodogawa, Masami Kosuge, Shun Kohsaka, Hideaki Yoshino, Satoshi Yasuda, Hiroaki Shimokawa, Atsushi Hirayama, Takashi Akasaka, Kazuo Haze, Hisao Ogawa, Hiroyuki Tsutsui, Tsutomu Yamazaki, Japanese Circulation Society Joint Working Group. *JCS 2018 Guideline on Diagnosis and Treatment of Acute Coronary Syndrome.* : *Circ J.* Apr 25;83(5): 1085-1196. (2019)
18. Ko Yamamoto, MD, Hiroki Shiomi, MD, Takeshi Morimoto MD, MPH, Masahiro Natsuaki, MD, Yasuaki Takeji, MD, Hirotooshi Watanabe, MD, Yusuke Yoshikawa, MD, Yukiko Matsumura-Nakano, MD, Satoshi Shizuta, MD, Kengo Tanabe, MD, Kenji Ando,

- MD, Kazushige Kadota, MD, **Yoshihiro Morino MD**, Ken Kozuma MD, Yoshihisa Nakagawa, MD, and Takeshi Kimura, MD. : Effect of Renal Dysfunction on the Risks for Ischemic and Bleeding Events in Patients with Atrial Fibrillation Receiving Percutaneous Coronary Intervention. Am J Cardiol. Feb 1;125(3) :399-408. (2020)
19. Masahiro Natsuaki, Takeshi Morimoto, Erika Yamamoto, Hirotoshi Watanabe, Yutaka Furukawa, Mitsuru Abe, Koichi Nakao, Tetsuya Ishikawa, Kazuya Kawai, Kei Yunoki, Shogo Shimizu, Masaharu Akao, Shinji Miki, Masashi Yamamoto, Hisayuki Okada, Kozo Hoshino, Kazushige Kadota, **Yoshihiro Morino**, Keiichi Igarashi Hanaoka, Kengo Tanabe, Ken Kozuma, Takeshi Kimura, STOPDAPT trial investigators. PLOS ONE. Mar 25;15(3) :e0227612. (2020)
20. Hiromasa Otake, Takashi Kubo, Toshiro Shinke, Kiyoshi Hibi, Shigemitsu Tanaka, **Masaru Ishida**, Toru Kataoka, Tomofumi Takaya, Masamichi Iwasaki, Shinjo Sonoda, Tetsuya Ioji, Takashi Akasaka. : OPTical Frequency Domain Imaging vs. INtravascular Ultrasound in Percutaneous Coronary Intervention in Patients With Acute Coronary Syndrome: Study Protocol for a Randomized Controlled Trial. J Cardiol. Apr 24;S0914-5087(20)30123-4. (2020)
21. Motoki Fukutomi, Kensaku Nishihira, Satoshi Honda, Sunao Kojima, Misa Takegami, Jun Takahashi, **Tomonori Itoh**, Tetsu Watanabe, Takashi Takenaka, Masaaki Ito, Morimasa Takayama, Kazuomi Kario, Tetsuya Sumiyoshi, Kazuo Kimura, Satoshi Yasuda. : Difference in the In-Hospital Prognosis Between ST-segment Elevation Myocardial Infarction and non-ST-segment Elevation Myocardial Infarction With High Killip Class: Data From the Japan Acute Myocardial Infarction Registry. Eur Heart J Acute Cardiovasc Care. May 18;2048872620926681. Online ahead of print. (2020)
- <著書>
1. **旭浩一**：慢性腎臓病（保存期腎不全）. 福井次矢, 高木誠, 小室一成編 今日の治療指針 私はこう治療している 第62版 TODAY'S THERAPY 2020, 医学書院, 638-641. (2020年)
 2. **田中文隆, 旭浩一**：無症候性血尿・蛋白尿（家族性良性血尿）. 山縣邦弘, 南学正臣編 腎疾患・透析最新の治療 2020-2022, 南江堂, 120-122. (2020年)
 3. **森野禎浩**：左心耳閉鎖術はWATCHMANの導入によりどうかわるのか. CATHLABJIN. 2(4): 28-33. 株式会社メディカルアイ (2019)
 4. **小松隆**：第1章;不整脈の見かた;9-3 不整脈の治療. 不整脈の考えかた、治しかた. 88-89. 中外医学社 (2019)
 5. **小松隆**：特集「心房細動の診断と治療のトピック」3. 薬物治療(リズムコントロールと心拍数コントロール)の現状. 循環器内科. 86(4) : 416-426. 科学評論社 (2019)
 6. **那須崇人・森野禎浩**：<急性冠症候群ガイドライン>補助循環. ICUとCCU 8月号 (Vol.43 No.8) : 医学図書出版社 (2019)
 7. **中島祥文**：<高齢者心不全に挑む>心臓弁膜症：心不全患者におけるカテーテルによる弁膜症治療の有用性について. 診断と治療. 107(8) : 939-944. 診断と治療社. (2019)
 8. **石田大, 森野禎浩**：IV冠動脈疾患 5. PCI. 循環器疾患最新の治療 〈2020-2021〉 155-158. 南江堂. (2020)
 9. **石川有**：TAVIの低リスクへの適応拡大. 循環器内科. 87(2) : 213-218. 科学評論社 (2020)
 10. **那須崇人**：<心不全診療で考えること、やるべきこと>心不全入院をくり返している場合に考えること、やるべきこと. レジデントノート 2020年1月号 (Vol.21 No.15) : 2676-2682. 羊土社 (2020)

<今年度の受賞>

11. **熊谷亜希子**：Ⅶ弁膜症 3. TAVI が行われた大動脈弁狭窄症. ガイドラインに心エコーを生かす-ケースから学ぶ指針の解釈と活用. 181-187. メジカルビュー社. (2020)
12. **中島祥文**：左心耳閉鎖デバイスの術前評価と適応決定. 心エコー. 21(6)：574-582. 文光堂. (2020)
13. **小松隆**. 小野克重、清水渉/編集. 日本循環器学会/日本不整脈心電学会合同ガイドライン、2020年改訂版不整脈薬物治療ガイドライン[JCS/JHRS 2020 Guideline on Pharmacotherapy of Cardiac Arrhythmias], 第6章:心房頻拍・心房粗動, P80-86.

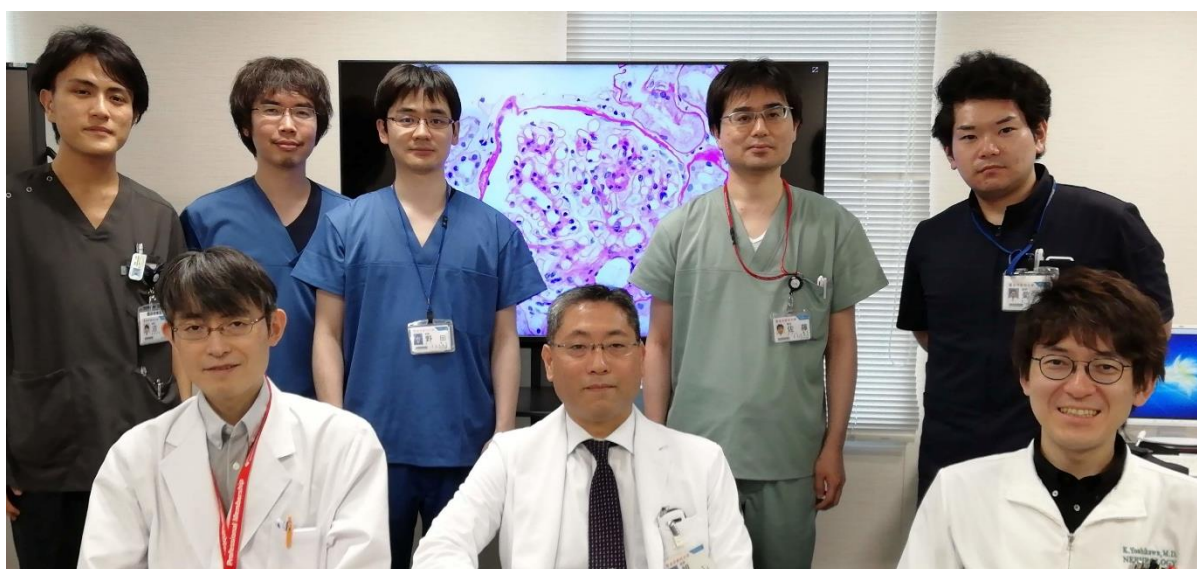
1. **肥田頼彦**
優秀演題賞（第33回日本冠疾患学会学術集会）
「当院におけるロボットPCIの初期治療成績」
肥田頼彦, 山屋昌平, 辻佳子, 石曾根武徳, 後藤巖, 木村琢巳, 森野禎浩
2. **松下尚子**
YIA 症例発表部門優秀賞（第169回日本循環器学会東北地方会）
「遺伝子変異が同定された若年発症の解離性胸部大動脈瘤の一例」
松下尚子, 佐々木航人, 山屋昌平, 兼古恭輔, 上田寛修, 肥田頼彦, 下田祐大, 安孫子明彦, 森野禎浩
3. **山屋昌平**
YIA 研究発表部門優秀賞（第169回日本循環器学会東北地方会）
「急性冠症候群および安定狭心症に進展し得る発症前冠動脈病変の比較検討」
山屋昌平, 森野禎浩, 田口裕哉, 二宮亮, 石田大, 房崎哲也, 伊藤智範, 木村琢巳

岩手医科大学 腎・高血圧内科 外来担当表

【内丸メディカルセンター】

※2020年4月1日～

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	新患 ・ 再来	田中	田中	田中	吉川	旭	交代制
		菊池		松浦		佐藤	
午後	再来	菊池		田中	野田		



岩手医科大学 循環器内科 外来担当医表

【内丸メディカルセンター】

※2020年10月5日～

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	房崎	伊藤	石田	森野	木村	1W 二宮
	後藤	二宮	中村	中村	安孫子 【脈管】	1W 中村
	中村	安孫子 【脈管】	大和田 【不整脈】	小松 【不整脈】	中居	4W 下田
						4W 澤
午後	中村	芳沢(美)	石曾根	那須	芳沢(美)	
	永田	安孫子 【脈管】	辻	芳沢(美)	安孫子 【脈管】	
			大和田 【不整脈】	小松 【不整脈】	瀬川(郁)	

【附属病院】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	肥田	石川	中島	木村	高橋	1W 永田
	熊谷	上田	佐久間	下田	石田	4W 後藤
	芳沢(礼) 【不整脈】					
午後	肥田	石川	中島	下田	高橋	
	那須(崇)	上田	佐久間		石田	
	芳沢(礼) 【不整脈】					



王圭会会報 2020

2020/10/5 書面決議後版

編 集 王圭会事務局

住 所 岩手県紫波郡矢巾町 2-1-1

岩手医科大学付属病院 循環器内科内

電 話 019-613-7111